

# 夢 通 信

令和7年2月14日  
第3号  
館林市立第九小学校  
キャリア教育担当

## ◆九小人権教育講演会（キャリア教育の視点で）

2月12日（水）に、全校児童および保護者、地域の方々を対象に、SUBARU陸上競技部所属パリパラリンピック銀メダリスト唐澤剣也選手とガイドランナー小林光ニコーチを講師に、九小人権教育講演会を行いました。

今回の講演では、障がいをもったアスリートやガイドランナーのお話を聞くことを通して、障がいのある人たちへの理解や障がいのある人が生活しやすい社会についての理解を深めることが、人権教育の視点での大きなねらいとなっていました。実際に、唐澤選手からは、目が見えないと困ることや、目の見えない人に対してやってもらえるとうれしいことなどをわかりやすく説明していただきました。

また、パラ陸上についての話も挟んでいただき、「レース中、ガイドランナーは声を出してはいけない」という〇×クイズでは、予想外の答えに驚いた表情を見せていた児童もいました。

さらに、陸上競技を始めたきっかけや、目の見えない人が走るには誰かに手伝ってもらわなければならないこと、頑張っコツコツ努力していくうちに、手伝ってくれたり応援してくれたりする人が増えて、毎日走れるような環境が整っていったことなどのキャリア教育の視点での話も大変興味深く、児童にとって学ぶことはたくさんあったと思います。

特に「努力を積み重ねても届かないこともある。でも必ず近づけることは間違いない。それを信じて頑張っしてほしい。」というメッセージや「頑張れば、必ず応援してくれる人がいる。」「夢を叶えるために、考えるということはとても大切。だから今何を頑張らなければならないかをよく考え、途中で投げ出さず、最後までやりきっしてほしい。」など、唐澤選手がパラ陸上を通して感じたことや学んだこれらの言葉には重みがあり、児童の心に間違いなく響いたと思います。

児童からの質問コーナーでは、「走っているときは何を考えているのか」や「食事面での体調管理で気をつけていること」「ガイドランナーの小林選手のどんなところが尊敬できるか」の質問が出て、一つ一つ丁寧に答えていただきました。

児童の感想でも「障がいがあっても夢をあきらめずにがんばる力があって、とてもすごいと思いました。」「障がいがあっても夢をもってあきらめずに挑戦できることが分かったの、僕も夢を叶えるためにあきらめずに努力したいです。」など、キャリア教育の視点で感想を書いた児童もたくさんいました。

ぜひ、ご家庭でも、九小人権教育講演会の内容について、「どんな話が印象に残った?」「〇×クイズの答はどっちが正解?」など、お子さんにいろいろと聞いてみてほしいなと思います。

唐澤選手は、2028年のロサンゼルスパラリンピックでの金メダル獲得を新たな目標に設定し、すでに走り始めています。

